

## 広島県地方産業教育審議会（第2回） 議事録（協議概要）

### 1 開催日時

令和3年11月30日（火）

### 2 開催場所

I G 石田学園ビル 131号室

### 3 出席委員

本多委員，植月委員，山本委員，川村委員，小池委員，長坂委員，古澤委員，久保委員，山高委員，吉村委員

### 4 事務局出席者

平川教育長，富永学びの変革推進部長，杉本学校経営戦略推進課長，竹志高校教育指導課長，中間教育指導監，中村主査，小桝指導主事，田中指導主事，開地指導主事，後藤指導主事，和田主任

### 5 議題等

- (1) 開会
- (2) 報告
- (3) 協議
- (4) 閉会

### 6 協議概要

会長：

○ 第1回で多くの御意見をいただいたが，本日は，それを基に気付きや，さらに内容を深めていきたい。非常に急速に展開する社会，激変している社会の中で未来を見据えて，我々が議論をしたことがどのような形で現場に反映できるか想像していただき，既成概念にとらわれないような意見もいただきたい。

本日は，次回の審議会で中間のまとめをすることへ向けて，いろいろ御意見をいただき，この後に専門委員会もあるので，そこでも議論していく。本日はどこか一点に進むよりも，御意見を様々な形でお聞きしたい。

○ それでは，本日の協議に入ってまいりたい。議論のポイントとしては，資料の3-3を御覧いただき，今回は，特に（1）の目標として，「本県の産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力」がどのようなものかについて話をしていただいたが，それが内容，また方法・環境のところまで広がり，ここにまとまっているような形になっている。

○ まずは，この一つ目の目標の部分について，上から知識・技能，スキル，意欲・態度，価値観・倫理観という四つの大きな枠組みで分ける形でまとまっており，こういう形でまとめていくということの御意見をいただきたい。

委員：

○ とりわけ知識・技能のところ、日頃から思っていたことだが、資料3-3の知識・技能の欄にある「教科ならではの固有の知識」というのは、確かに学習指導要領に則った教科ならではのものはあるが、今回、専門教育の中における普通科教育の特色というものを学校ごとに特化してもいいのではないか。

例えば、専門高校では大学進学が限られる現実がある。そういう中で、何のために普通教科を学習するのかというときに、とりわけ自分の専門性に何かつながるような教育内容であるとか、少し工夫を凝らした学習指導要領の中身が特色化されれば、生徒自身も意欲が高まるという側面があると実感した。教材開発、小テスト等、何か一つにしても、これが自分の専門性に関係するという側面を各学校が特色化すれば、学習全体の意欲向上につながっていくと感じた。

表現としては、「専門高校ならではの」とか、括弧で「専門高校の特色も生かした」といった記載があれば、教材開発などで、そういう側面が強調されるのではないか。

会長：

○ それぞれの分野での特徴を捉えた上での固有の知識、そういう形は当然必要かと思う。今までの議論の中でも、一般教養、一般的な知識も当然必要だという意見もあったと思う。その辺の観点も、この知識・技能というところに入れておいたほうがいいのか、その辺も含めて皆さんの御意見をいただきたい。

委員：

○ 今のようなことを、ここに付け加える必要もあると思う。ただ、付け加えたいことがどんどん膨らみ過ぎるのもどうかと思うので、極力色々なことが網羅できるような表現がいいかと思う。

○ 第1回専門委員会の議事録を読み、大変に興味、関心が湧いた。ものづくりに興味があるから工業科に進学したい、あるいは簿記、会計などの資格を取って商業分野に進みたいから商業科に進学したいだけでなく、幅広く、広い視野を持って考えていける力を中学校のうちにしっかり付けることができればいいと思う。

委員：

○ 1回目で皆さんから出てきた資質と能力を拝見し、改めて見ると、全体として、今後の社会に向けてどういったスキルが必要かという点は、一定程度すでに出ていると感じている。

さらに教育内容、教育環境についての議論をしていくことになると思うが、資料3-3の作り方が非常にうまくできている。今からの教育内容、教育環境について、こういったスキルや価値観を身につけるために、どうやっていくか、どういうことが必要なのかということ掘り下げていけば、審議会として充実した議論ができると思う。

委員：

○ 知識・技能の話と、スキルというところの課題発見とか、「そうぞう〔想像・創造〕力」等々、今まで自分が中高生のときの学びでは、単語としては知っていても、そういう捉え方をしてこなかったことが、近年、大事ということで教育現場の中でそうした言葉が出てきて、非常に頼もしい。

○ 専門性を早い段階から意識づけするのは大事な部分もある反面、子供たちが、いわゆる基礎学力の5教科等の必要性を聞いてくるという話がある。今は、スマホ一つあれば計算もできるし、漢字、言葉もすぐに出てくる。それなのになぜ数学・算数を学ぶのか、国語の知識が必要なのか、これらを学んでできるようにならないといけないのか。それはもちろん、ここに出ているスキルの項目を養うために必要なことだからだと思う。

- 要は、間違いを間違いと感じずに進んでいってしまう、結果が出たところで間違いだったと気づいてしまう。例えば、調理で、分量が5グラムを50グラムとか500グラムと間違えて表記したときに疑問を持たずに、それを信じてやってしまう。「疑問に思う力」があれば、失敗する前に気づく。その力が、今ちょっと欠けているかと思う。

会 長：

- 「疑問に思う力」というキーワードも出た。
- 知識・技能，またスキル，意欲・態度，価値・倫理観について，幾つかの中にキーワードが入っているが，この辺について，併せて意見があったらお願いしたい。

委 員：

- 知識・技能に関しては，個人的な見解だが，自転車みたいな感じと思う。知識が遠くを見通す目，技能が自転車のペダルを漕ぐ足。
- 何のために5教科が必要なのかということに関して，なぜ社会に必要なことを勉強しないといけないのかという疑問は，誰しもが思うようなこと。社会に出たときに，なぜそれが必要なのかということを理解できるよう，先生や保護者，働いている環境の人が，子供たちに，それが必要だということの説明する必要がある。

結局，スマホがあれば何とかなる，AIで答えが全部出るというのは，それはそれでいいが，そこにおける背景や歴史があるので今がある，今があるから今度は未来につながるということをやうまく説明できればいい。そういうことがスキルのほうにつながって，「そうぞう力」や，今後どうしたらいいのかということに関して，自分の方向性が見つかることによって意欲や態度が変わってくるというような方向になってくると思う。

- 自分がどういったことに進んでいけばいいか，何が正しいのかというところを，価値観，倫理観という，新しい自分の価値というのを見いだしていくことによって，今後の目まぐるしく変わる未来に対応できる子供になると思う。

会 長：

- 背景を知った上で，物事をいろいろと考えないといけない。例えば，スマホを使うだけであれば色々なことができるが，誰かが作らないとスマホはできない。作る人も必要ということもある。
- また，出てきた答えが正しいか，先ほどの「疑問に持つ力」，例えばスマホで調べた結果が本当に正しいか正しくないのかということを選別しなければいけない。そこにはやはり自分の力みたいなものも必要だということで，何か答えが出るからいいと満足してはいけないということかと思う。

委 員：

- 実際，今の子供たちは，携帯があるので，友達の電話番号一つ覚えていない。今は，そういう記憶力とか，考えの発想がもう全く〔異なる〕。そういうことを除外して，学校側では，もっと新しいことに取り組んでおられると思う。
- あと，やはり行動力。どういう教育をすれば行動力につながるかは分からないが，やはり消極的な若い人が増えていると感じる。もっと自分，自己を表現できるような人材，失敗をしても，成功をするためには失敗から得ることがいくらかでもあるとか，そういったことをもう少し学校教育の場で〔伝えられるよう〕，もっと自己主張ができるような環境づくりがあればいいと思う。

会 長：

- 自己表現，自己主張という言葉が出た。非常に大切なことと思う。

委員：

○ デジタルで、スマホで何でもできる、インターネットで何でもできるようなときに、今の子どもたちは、もう出来上がったものをそのまま受け入れて、それを全く疑わないで満足してしまっている。だから、何で数学を勉強しないといけないのか、計算機があるじゃないかという発想になってしまっているのは、ちょっと危機的な状況。

○ インターネットがなかった時代は、情報もなかったので、本を読んだり、いろいろ思いを巡らせたりして、想像力が自然と培われた。今は色々な情報が入ってきて、調べればすぐ何か書いてある。しかし、それは、うそか本当か分からない。そんなのを信じてやっていくので、変な事件も起こっているということに気づかせることを、最初にやらないといけない。

今の時代、自分で想像力を発揮するシーンがなくなりつつある。やはり人間は楽しい、楽しいことが好きだから、何か面白いものが出てきたら、それで満足して終わってしまう。そうではなく、情報・知識は入れておいて、自分だったらこうするというようなことを体験し、学び、気づかせるという、そういうアクションを起こしたほうがいいと感じる。

会長：

○ スキルのところで書かれているものをどのような形で話せるか、意識づけするかだと思う。

委員：

○ スキル、意欲や価値観に関しては、学校でどうすることもできないことが多い。チャレンジ精神を学校で広くあまねく身に付けさせるとするのは、幻想でしかない。向上心とか、親の問題のほうが大きかったり、家庭環境の問題だったりするので、学校で取り組んで次の世代に効果があることに集中すべきだと思う。

例えば、スキルでは、最近、情報活用能力が結構低いと聞く。これはスマホだけ使っていて、パソコンで何か作るということができない大学生がかなりいる。パソコンというのは、受動的に情報を受け取るのに使われている。ニュースをほとんど無料で見ることができるのは誰かが得しているからであって、見させられて、誰かが儲かっているという構造で、〔見ってもらうために〕非常にセンセーショナルな伝え方をする中で、その刺激に慣れて、次にもっと渴望させられてきている。これは情報やITを活用しているわけではなく、メディアを見させられているという状況の中に埋もれているだけ。

○ 発信力にもつながることだが、自分が何かやろうとしていることとか、取り組もうとしていることを整理するにも、伝えるにも、それを分析するにも〔情報活用能力が必要だが〕、これは高校で今やっているか。

委員：

○ 「情報Ⅰ」の授業や、工業高校の工業に関する科目の中で、タブレット又はPCを使用し、簡単なプログラムを作ったり、3D CAD\*を使って製図をしたりするなど一応の操作と、クリエイティブに活用するというところも行っている。

委員：

○ 情報活用能力が大事だと思うのと、スキルで言うと、ずっと言っているが、抽象化力と、それに続く構造化、要はフレームワークで物事を考えるという、これは抽象化力とつながるところで、これに特化したほうがいいと思う。

○ コミュニケーション能力も、学校で機会は作れても教科として教えられないと思う。でも、それは学校環境の中にもう備わっていると思う。だから、新たに意識的に何かセットしてインプットしていく、提供していくというところかというと、抽象化力のところを何か具体的にカリキュラムとして開発して、広島として〔取り組んでほしい〕。

- この整理の観点とは違うが、学校の教育を変えるというところで、学校の中で非常に影響力があるのは教員だと思う。教員をどう変えるのか、教員がどう変わるのかという議論が全然なくて、何かそこにも議論がないといけないと思う。

例えば、例示として、Society5.0\*とか、新しい社会モデル、こうなりますと書いてあるが、地方議会など、民主主義の根本的な存在の在り方に関しての指摘が何もなくて、実はそこで盛んに従来型の利益誘導が行われていて、色々な良い意見も結局薄められて、訳が分からなくなっているということが繰り返されている。それなのに理想とすべきありようだけが提示されて、それをつくるための構造として、最も課題多き存在である、民主主義の根本的なところの議論が提示されていない。

学校や教育のことを考えるとき、先生がどう変わるか、そこは議論というよりも先生も参加できることでいうと、若手の先生が、農工商を超えて共通化カリキュラムに関して何かつくるとか、そのような先生も変わることをやらないと、〔教育内容は〕変わらないように思う。

- 課題提起としては、絞るということと、学校の先生にも、若い先生を主体に、この取組に参加する場面をつくって変えていくことに意味があると思う。

より長く教育現場にいるという前提と、卒業生も含めて教え子たちと対話していく存在であるべきというところで、20代の若い先生たちの新しいカリキュラムを、農工商という分野を超えて何かやる、教員も何か変革していくみたいな機会をつくってほしい。

会 長：

- 目標のところでは幾つか上がっているうち、もちろん全て必要だが、高校現場にそれを落とし込めるのかというような問題提起である。

- 中間報告をまとめるときに、こういう力があって、その中で、特にこれについてこういう施策で頑張ってやっていくのがいいと、そういう整理をしていくことになるかと思う。

今から諮問の2点目・3点目、内容や方法について協議していただくが、見ていただいたとおり、例えば、行動力みたいなところは今まで何も出ていない。これは、高校現場ですぐに内容や方法として落とし込めないということが、見てとれるかと思う。そういう意味で、まとめ方としては、少し絞りながらまとめていくという形で、ただ、出すことは出しておく必要はあると思う。

- もう一点は、教員が変わらなければいけないという話があったが、これは大学でもそう、中学校でも専門学校でもそうではないかと思う。

幾らいいものをつくっても、教える人が変わらなければ、結局同じような教え方になり、全く伝わらない。そういうところで、これから長い間、教育現場にいる若い人はもちろん、今は教育現場に浸ってなくて、新しい考えを持っている若い人に、そこの先を考えてもらうというのは重要なことだと思ってお聞きした。

副 会 長：

- 前回、福祉人材について、介護の職員を念頭に置いた人材像をお話しした。

一方で、実は介護福祉士に対して、社会福祉士、ソーシャルワーカーという方もおられ、従来から色々な仕事、地域で、個別支援に当たっている。今、国は、2040年に向けた地域共生社会づくりとして、こういったケースワーカーの方々による個別支援では間に合わなくなるため、制度や属性の色々な縦割りも廃して、全てごちゃ混ぜで、全世代が全資源をつなげて支えようと打ち出している。そういう中で、こういうソーシャルワーカーの仕事も参加支援とか、地域づくりをもっとやらないといけないという方向になる。

そういう中で、例えば、中山間地域などは担い手不足で耕作放棄地が増えている一方、暮らす住民も生活困窮やひきこもりなど就労支援が必要な人がある。この二つの課題、マイナスとマイナスをひっつけて、何とかプラスにしていく、そういう仕組みづくりをケースワーカーも担っていかないといけない。そこへ色々な地域の住民も巻き込んで、地域の活性化につなげていく、こういうことが福祉のケースワーカーにも今から求められる。

○ つまり、福祉〔に携わる人〕も福祉的アプローチだけではなく、まちづくりもやっていかないといけないという様に、守備範囲が大分広がってくる。地域の全ての様々な課題をしっかりと見て、そこにどういう人的・物的資源があるかということを上から俯瞰して、どれとどれを結びつけたらうまく両方の課題が解決していくのかという発想力のような、人をたくさん巻き込んで取り組むための「巻き込み力」みたいな力がある。そして、新しい、お金も動くような循環モデルをつくっていく、こういう力が要るということを福祉の視点から付け加えさせていただく。

○ 資料3-3でスキルが整理されているが、産業を興していくという起業力みたいなところも入ってくるかと思う。

また、ネット文化の中では、情報量はどんどん深く幾らでも取れるが、幅広く横を見ていく力というのがなくなりつつあるのではないか。やはり全体を広く俯瞰できる力が大事ではないかと思う。

会 長：

○ 地域との関係も考えながら、教育を少し広げて考えるというお話、また、「巻き込む力」、「俯瞰する力」もあっていいということ。

○ 目標については、我々の考えていることはおおむね出たかと思うので、本日新たに出た視点も含めて、ベースとしたい。この後、(2)と(3)のところ、その力をつけるためにどういう教育内容か、また、どういう方法が必要かというところをお話いただきたい。指導方法や教育環境の充実に関しては、どちらも切り離すことができないところなので、まとめて意見をいただきたい。

委 員：

○ 教員はいいのかという指摘に関連して申し上げるが、学習指導要領が改訂されたことで、産業界に話を聞くというカリキュラムが増えていて、とてつもない数の依頼がやってくる。しかも、オンライン〔が普及したこと〕で、広島県内だけではなく、関東とか九州とか、今までお会いしたことがない学校から、お話を聞かせてくださいという依頼がたくさんあるが、構想とかを聞くと、先生は丸投げで、全然分かっていない。「何か聞かせてください」と言われ、何を話すのか聞いたら、「いや、何でも」と〔返ってくる〕。例えば、SDGs\*とか、環境とか、生徒に何を学ばせたいのか、何を学ぶべきなのかは、やはり選択して依頼いただくことが非常に大事かと思う。やはり教員の教育、生徒を導くリーダーとして、教員のセミナーなどの企画もあっていい。

委 員：

○ 学校で資質・能力を育成する際、一体どこまでできるかという点に関しては、学校現場だけでは本当に限られていると思う。

学習指導要領では、「開かれた教育課程」ということで、学校は自分たちの限界を自覚し、自前だけではなく、外部からの御支援をいただきながら幅広く要素を取り入れようとしている。実際、生徒たちに本物を見せる、実体験として感じさせるということを取り入れる場面も増えている。しかしながら、いまだ学校での限界を感じている。

本校の事例では、保険会社や銀行の方、企業の方々に来ていただき、講演や実践授業をしていただいている。教員側は、関係機関との連携はとるが、結局その学習内容を学校組織でどのように共有し、生徒にはどのように影響しているかという点については案外見えてこない。

- 教員は教育のプロとして、それらの色々なイベントをつなげどのように生徒に理解させていけるか考えなければならない。どういう視点でどうつながるから、個々の生徒にはどのように影響していくかなど、指導者としての技量、意識を高める必要があり、教員のトレーニングが必要になっていると感じる。外の力をいただくことは必須だし、それを生徒が自分たちのものとして理解できるよう、生徒に一番近い教員としてどう対応していくかは、学校に求められている使命だと感じる。

会長：

- 引き続き、(2)と(3)について、目標に掲げたような力をつけるために、どういうことが必要なのかについて御意見をいただきたい。

具体的には、何かコンテストをやってみたらどうかとか、地域の課題を解決するようなことを、それぞれの専門学科にとらわれずに集まってやってみてはどうかといった、方法、内容についての御意見もいただいており、資料に出てきたものがまとまっているが、これだけではないと思うので、御意見をいただきたい。

委員：

- 資料にもあるが、子供たちに何か企画させて、地域の会社や有志の人からお金集めてみるということは、校長だったらやりたいこと。しかし、広く全学校を対象にという施策の観点から考えると、内容に相当ばらつきが出る。主体的に取り組む生徒やリーダー格の子はものすごく色々なことを学べると思うが、フォロワーとして入ってくる人たちは、あんまりよく分からないという〔状況になりえる〕。手段と機会は増えているので、やる人はやるが、やらない人はやらないという、差がつき始めている。放っていたらその状況は助長される。

そういう意味で、教育的効果を〔狙って〕実施する施策としては、少し難しいとも思うが、やったほうがいい。

委員：

- 地域によって、県東部だったり中山間地域であったり、学校も農業だったり商業だったり、テーマは当然変わると思うが、何か抽象化して、広島県の課題解決みたいなテーマで、「みんなで何か探せ」みたいなことをテーマに沿ってプレゼンして、関係する企業や、地元の企業・団体とかにも関わってもらえる発表会みたいなものを全県で同時に、どこか大きい学園祭みたいな、発表会で発表するような、そういうことをテーマにしてやるとか。

委員：

- それ、イベントとしてはいいと思う。
- 教育という観点で、最近の一つの流れとしてあるのは生涯教育、あと学び直しとか。

要は、これまでは、例えば大学以降、社会に入ったら、恐らく実地で〔学ぶ〕という話だったが、やはり教育の機会を、人生にわたって現役中はずっと続けたい世の中になってきた。知識社会では、知識をアップデートしないと価値が目減りし、相対的に減っていくという状態が明らか。これまではパラダイムが安定していたので、その分野でずっと積み上げれば、経験年数がそのまま価値に置き換わっていたが、〔パラダイムが〕変わってきているので、高校までの教育は基礎教育なので、あんまり盛り込み過ぎて、アイデアいっぱい、総花的にして、結局何もできないという状況はよくない。

例えば、これまでオリンピック競技はこういう競技と〔具体が決まっていたので〕、それぞれが「バレー科に行く」とか決めて行けたが、最近はアーバンスポーツ\*とかが入ってきて、何を競技として選ぶかは先にあると〔いう状況〕。じゃあ、スポーツマンとしてやっていくときにベースとして何が大事かといったら、例えば持久力、体幹力、柔軟性とか、これが身に付いていればバレーでもスケボーでもスキーでも、それはあなたの出会いと感性で決めればよいということになる。

やはり高校段階の教育は総花的にならずに、基礎力としてこういうことが大事ということを整理して、未来につながる基礎力を高校でしっかりと付けていくということをやすべき。何をやるかというアクションプランに落とすときは、何かに狙いを定めて、その仮説に基づいて、特化して何かやるということをししないと、結局様々なことを多くの時間を投下して色々と語り合うけど、総花的な話だけで何も変わってないみたいになるのはよくない。

明確に変えるためには、的を絞らないと、あの色もこの色もといったら、訳が分からなくなる。取れんさせていかないといけないと思う。

- 5教科は、すごく大事。専門学科でも、これまでどおりしっかりやるということだと思うが、多くの子供たちが広島に残るということであると、広島のパワーを上げるには、やはり残る人たちがベースになると思う。5教科と、ITリテラシーが結構使われているということだったらいい。

会 長：

- 全体的な観点で御意見をいただいた。その中で、農業、工業、商業という、専門学科での基礎力のつけ方みたいなことが表現できると集中できると思うが、普通科と違うところはどういうところか。

委 員：

- いわゆる専門系の学科は、言うなれば具体化している。工業とか農業とか、そのまま行ったら、その分野しか行けない。だけど世の中は変わってきている。兼業も副業もできず、工業系の会社に入るなら、工業の基礎だけを具体的に勉強して、メーカーに入って、終身雇用だったら、それでもう勉強しなくてよかった。しかし、今は働き方も変われば、兼業・副業もできる、どこで働いてもいいとなっているから、ずっと学び続けたいといけない。
- 陥りやすいのは、専門系の高校で、農業、商業、工業の基礎だけを勉強していたら、そこからどこにも逃げられない人間ができてしまう。抽象化できる能力を持っておかないと、工業以外、農業以外という発想や、学びを持っておかないと、一番危ない子供たちになってしまう可能性がある。

逆に、普通科の高校の生徒は、とりあえず大学行ってから考えればいいとなると、抽象化はできてはいないが、具体性も持っていないので、まだ逃げ道はある。だから、そこ〔抽象化できる力〕を専門高校の生徒に持っていただく意識づけ、教育が必要と思う。

教 育 長：

- この広島で生まれ育ち、そして家族を持って働いていくというような人たちがいない限り、広島県はもたない。例えば、商業高校に行ったから商いをすべきとか、工業高校に行ったから工業に携わらないといけないということではないと思っている。やはりモチベーション高く前向きに生きていってほしいので、そのために、どんな人に残ってもらいたいのかという観点でお話をいただくと大変ありがたい。
- 委員から、自己表現のお話もいただき、教育委員会としてもそこが大事と考えているため、令和5年から高校入試を変えることとしており、これまで先生たちが調査書に中学校3年間

の子供の頑張り、あるいは功績とかを、所見という形で書いていたが、それをやめて、自己表現というのを入れる。

これは面接ではなく、「とにかく時間をあげるから、目いっぱい自己表現してみなさい」とTEDみたいなことをイメージしている。例えば、色々なお子さんがいるので、緘黙〔場面緘黙\*〕の子には見せてということもあるし、パソコンも持込み可とし、例えばピアノをそこで弾くことはできない、犬が好きでも、犬を連れて会場へは来られないので、自己表現では、30秒で動画にしても構わないとしている。

- 具体化，抽象化，あるいは行動化のお話もいただき，どうやったらそれができるのかということで，来週，「具体と抽象」の専門家である細谷功氏に，広島叡智学園中学校で講演いただく。中学生にも分かる講座が開ければ，これは専門高校の生徒にも参考になるし，ひいては広島県の子供たちがこの具体と抽象というところを身につけられるのではないかと思っている。

会 長：

- 一番のポイントは広島県の産業人口。産業を育て，活性化するために，高校でどのような教育カリキュラムを展開していくかというところ。

基礎力が必要という理解，認識は一緒になると思うが，それとともに，観点として，地方の産業を活性化するために，高校生に与えておきたいことがポイントかと思う。

例えば，普通科と工業科で，普通科と違う，こんなことができる，しているみたいなことがあれば，紹介していただけるとありがたい。

委 員：

- 一番大きな違いとしては，カリキュラムがそもそも違う。いわゆる普通科の学校であれば，国語・数学・英語・理科・社会といった，進学等に関わるものがかなりカリキュラムに組み込まれているが，専門高校，工業でいえばかなりの実習の時間がある。だから，専門高校では，進学等に必要科目の単位数が十分に確保されていないというのが現実である。

ただ，専門高校であることがメリットかデメリットかという点，少なくとも実習に時間を費やす時間は，かなり専門なことをやるので，知らず知らずにやはり専門性は身につく，それらが気づかないところで生徒にプラスや強みになっていると思う。

進路変更をする場合でも，その経験が生徒の将来にとって，何かの意義を見いだすと確信をしている。そこが大きな違い。

会 長：

- カリキュラムという切り口は，分かりづらいところもあるが，経験で学ぶところが違うと。私の考えだが，受験のために勉強するのか，そうではないのかという違いかという気もする。普通科は当然進学を目指して，学んでおり，目指すところが違う。でも基礎力，5教科は必要だということを考えると，何のために基礎力をつけるのかというところに違いがある。

委 員：

- 生徒は，基礎学力が要るということを教員から毎日言われているが，それが実感できていない。ただ，実習の中で，基礎学力を求められる場面がある度に，生徒自身が自分で気づく，又は先生が助言をすることで，何のためにこれを行っているのかということが腹に落ちてくるといった面がある。

ただ，それを本当に理解して，毎日の授業に向かっているかという点，なかなか課題がある。専門高校ということで何か特色のある授業が展開できれば，基礎基本も自分のプラスになるということを実感して授業に取り組み，それが実習の充実にもつながっていくと感じる。

会 長：

- 専門高校だからこそできることをまとめていかないといけない。

委 員：

- 高校生から会社見学，会社説明の依頼が多いとの話があったが，農業関係はそういう依頼が少ない。近隣の農家に話を伺いに行くことはあったりするが，なかなか現場を見る機会とか，色々な若手の農家がいるのに〔学校との〕関わりがほぼない。
- 産業会，農業会，工業会など色々な組織があると思うが，こういう組織の中で，学校の高校生が関わるというのも一つの手段とは思ふ。例えば，広島県工業会とか，農業関係の組織など，商業，工業の各分野にある組織に，カリキュラムの一つとして，高校生をオブザーバー的な形で〔参加させることで〕，どういったことをやっているか，どういうことを〔業界の〕皆さんが考えているかについての意識づけにもなるのではないか。そういう大きい組織と学校が関わっていくのも，一つ手段だなと思った。
- そうなると，興味がある子は多分前にどんどん出ると思うので，そういった形で，新しい刺激にもなると感じた。

会 長：

- 本人が意識しないと学べない，学ばないし，記憶にも残らない。産業界が意識づけのきっかけとなる材料を与えることという様に聞いた。  
専門高校でどういうことをするのがいいのか。

副 会 長：

- やはり識見を拡大していくことが必要だと思う。色々な他分野の実習に参加していくという事は，すでにある程度やっているかもしれないが，やっていけたらいいと思う。
- 専門委員会の議事録で黒瀬高校の校長のお話も読ませていただいた。  
結果的に，別分野に進む生徒も結構いるという実態もある中，その人たちは，外れるのではなく，その人たちの希望にも応え，意欲にも応える形で，別分野の実習や体験をしていくということも必要かと思う。福祉であれば，寄り添う福祉の心を持った人材が，色々な分野へ行くことにより，その強みを生かした取組につなげることができるということは，やはりプラスになる。
- 他分野の体験をどのようにするかということ，コンテストの話とか，色々な考えも出ているようだが，やはり正解のない課題にどう向き合っていくかというところに取り組みするようなトレーニングとか課題演習的なプログラム，そういったものを導入し，色々な地域課題がたくさん出て，そういったものに専門高校の生徒が集まってアイデア出していくみたいな取組が，いい人材育成につながっていくと思う。

会 長：

- コンテストのことも触れていただき，委員からも指摘があったとおおり，やる人はどんどんやるが，やらない人はお付きのようになるだけで，力が本当につくのかという〔課題〕は感じる。カリキュラムのつくり方として，どうつくっていくのかというところになる。  
一つの方策は，コンテストみたいなものや専門学科間の交流，そういう横の連携みたいなものが重要かを感じる。
- 前回，情報活用能力は我々より若い人の方が長けている，どんどん学んでいくという意見があったかと思う。そういう中で，専門高校として，情報教育，情報活用能力を少し強調して育成することはどうか。産業界から見たとき，高校生のときにそこまでやらなくてもいいのだろうか，情報活用能力はどんどん上げておいたほうがいいのか。

委員：

- デバイス，携帯を使うことはもうみんなできる，特殊な能力でも何でもなく，当たり前になってきている。

一点あるのは，自分が触れる情報やニュースに，フェイクニュース\*やうそもたくさんある。デジタル技術の進展により，情報をあまねく，どこにいても，どうでも取れるという「もろ刃」であるところ，いいところと悪いところが相交じっているところは強化されている。情報化社会に対してどう認識すべきかみたいなことは勉強しているのか。

教育長：

- フェイクニュース\* [にどう対応すべきかといったこと] はまだまだできていない。どう情報と向き合うかというような，情報教育は，そこまではできていない。だから，OECDのテスト [生徒の学習到達度調査\*] で，読解力，与えられた情報でどう結論づけるのかという問題を，「与えられた情報だけでは何とも言えない」というのが [正しい] 結論なのに，日本人は，与えられた情報が全て正しいと思って「これは正しい」とか「正しくない」と答えてしまった。結局，日本人は情報活用能力もしかり，読解力がない。というか，答えがないなんて思ってない，テストはマルかベケかと思っている。

ITリテラシーとか，モラルなんて言うが，そもそもどう向き合うか，入ってくる情報が，信頼できるか信頼できないのかという判断も含めて，教員も生徒も至っていないのが現実。

- だから，例えばワードやエクセルができるかどうかなんて，本当はもうどうでもいい。入ってくる一次情報がどれだけ信用ができるのか，信用できないのか，何か論文を読んでも，それが信頼できるか，できないか，どういう人が言っているのか，ネットでの情報は信頼できるサイトか，信頼できないのか，本当はそこからやっていかないと [いけない]。

学者が若いときに実は盗用して，悪気なくやっていたということがよく新聞沙汰になるが，あれは，そういう [情報の真偽を見抜く] 教育をやってこなかったため，悪気なく盗用して [しまっている]。本来であれば，それは誰かが教えないといけないので，そこは教科というより探究学習の中でやっていかざるを得ないが，本当は一番重要かと思っている。だが，専門家が来て1回やったところで身に付くものではないし，どうやってやればいいのか。普段からそういう疑いのまなざしを持ってやらない限り無理なので [難しい] ところはある。

委員：

- 学校で [の教育内容に] 落とし込むのは難しいが，ここは重要。もう時代の境目，動いているところなので，社会的な失敗をたくさん起こして，それを見て社会が学習していくという時期を経ないと，どうしようもない。人為的なカリキュラムで何か伝えても，やはり難しいところもある。

会長：

- 変化しているので，教えたことがすぐ古くなってしまう。
- 情報の信頼性を自分の目で調べて，知るにはみたいな話もあったが，どうか。高校現場で，本当の情報を見る目をどうやって養うかみたいなことを，うまく入れられるといいと思う。本物に触れるみたいな話もあったと思う。そういうことをたくさんしていくことは一つ重要で，産業界，社会と触れ合って，社会へ出て行って見て刺激を受けて，さらに自分の学びを広げるみたいなことも当然ある。

委員：

- タイミングを見計らって，例えば世の中に何か [出来事が] あったときに，そのタイミングで，その都度その都度，ちょっとした時間を利用して，子供たちに情報モラルとか，こん

なことがあったが知っているか、どう考えるかと問題提起しながら、子供に呼びかけていく  
ということの繰り返しかと思う。

会 長：

- 学ぶほうも興味がないことは学ばない。何か起こった事象を捉えて話題をつくっていくのはいいと思う。ただ、それをカリキュラムにのせるのはなかなか難しい。

委 員：

- これに関しては、例えば普通科でも使える統一のビデオを作るとか。情報は「もろ刃なんだ」と、うそのニュースはこういう怖い仕組みになっているとビデオか何かで〔伝えることに加えて〕、ディスカッションする時間をセットでやるぐらいはできると思う。

会 長：

- そういう中に一つ専門高校だからみたいな特色が入ると、面白いことになるのかなと思う。
- 普通科との違いを考え、専門高校として少し違いを見せて、新しい形を示すことができる  
といいと思うが、内容、方法・環境について、さらに違った視点等はどうか。

委 員：

- 資料3-3には書かれていないが、専門高校の生徒には広島未来を担っていただきたい、岡山とか山口の未来を担っていただきたいわけではないので、やはり広島愛、郷土愛という  
か、そういうものがないと未来の人材の話だけになってしまう。テーマを広島に置くという  
のが一つやらないといけないと思う。それも最後になって、広島がすごく魅力があるところ  
だったと気がついて遅いので、是非、高校1年ぐらいの早い〔段階で〕カリキュラムに入  
れていただきたい。

平和学習はすごくやっているが、ポジティブな話ではないので、平和学習をやっても、広島  
に残ろうと思う生徒がどれぐらいいるのかなと思う。どちらかという、広島歴史は、  
5世紀、6世紀、7世紀ぐらいから続くすばらしい文化や伝統がある。軍都や学都という他  
の地域とは違う生い立ちのため、ああいうこと〔原爆投下〕になってしまったが、〔第二次世界  
大戦以降〕の話ばかりしていて、その前の歴史を伝えないのはすごくもったいない。それ  
を知れば、広島で働かなくても、広島がふるさとだということが自分の自信になる、心の底  
に誇りとして持てる。そういう人材をつくることは、将来的な色々な能力のことは当然だが、  
ベースとして必要かなと思う。

- 県の学芸員や、そういう郷土学をやってらっしゃる方が、たくさんいらっしゃると思うので、  
そういう方に中身をつくっていただいて、広島学というか、そういうことこそ専門高校  
の生徒に是非知っていただきたいと思う。そういうことが、地元に残って働くのが負け組な  
んかではなく、地元で私はやりたいと思わせるようなマインドづくりにつながると思うので、  
御提案したい。

委 員：

- それは、すごくいい。広島が地政学的に持っている、あるいは歴史的に積み上げてきたこと、  
例えばたたらも、当時のハイテクの産業を集積して、ものすごく技能者とかテクノロジーが  
集積してきて、それに伴い財も豊かになり、工業的にはずっとそういう、もう何百年、  
1,000年近いぐらいの歴史の中で積み上げてきたという背景、文化的にも豊かな地域で、土地  
柄も最近瀬戸内海がますますきれいになってきて巨大な天然生けすで、漁業の可能性も相  
当ある。

これらを体系化してまとめるというのは、広島に残るといふ農工商の共通項でいうと、す  
ごくいいと思う。あとはカリキュラムにできるかどうか。

委員：

- できると思う，是非一枚噛ませていただきたいぐらい。

広島の人なら知っておくべきだが，当たり前過ぎて皆さん知らない。歴史の話を知ると，ぐっとモチベートする瞬間を何回も見てきているので，それは基礎としては是非やるべき。

会長：

- ありがとうございます。是非，考えてみたい。

- 本日も色々な意見をいただいた。全体をまとめるのは難しいが，やはり基礎力をしっかりとつけるということが重要との指摘が一つあった。

その中でも，専門高校として産業界を活性化するために，どういうことをしていかなければいけないかという御意見もいただいた。経験に基づくところ，また，地域とのつながり，これは企業の場合も，また，地域社会の場合もあると思うが，そういうつながりも活用しながら教育を行っていく必要があるという話もあった。広島学という言葉もあり，広島で働くよさを知ってもらうということも基礎力の一つとして入れてもいいと思う。

- また，全体的に，カリキュラムをつくることを念頭に置きながらいろいろな話があり，様々な意見で広げていただいたので，それらを中間報告でまとめていきながら，最終的にどういう施策がいいかという部分に落とし込めればと思う。

地域との連携や，中学校と高校の〔つながり〕という話もあったが，縦のつながり，横のつながりも考えながら，これまでいただいたものをまとめていきたい。事務局においてまとめていただき，次回の会議で報告いただきたい。

- 以上で，本日の審議会会議を終わらせていただく。長時間にわたり御審議いただき，ありがとうございました。

以上

【用語解説】

	用語	解説
あ	アーバンスポーツ	都市の遊びの中から生まれた若者に人気のあるスポーツ（スケートボードやスポーツクライミングなど）で、音楽やファッション性を伴い、都市的なイメージを持つ一連の競技群。
	I o H	Internet of Humanの略。「ヒトのインターネット」と呼ばれる。デジタル機器やモノだけでなく、ヒトまでもがインターネットに接続される概念。人の位置や行動、各種生体情報、感情、嗜好などが常時データ化されてインターネットに集められる。
	I o T	Internet of Thingsの略。これまで主にパソコンやスマートフォンなどの情報機器が接続していたインターネットに、産業用機器から自動車、家電製品までさまざまな「モノ」をつなげる技術。
え	SDG s (エスディージーズ)	Sustainable Development Goalsの略。「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標（2015年9月に国際サミットで採択）。17のゴール、169のターゲットから構成。
す	3D CAD (スリーディキャド)	3次元コンピュータ支援設計。設計や技術ドキュメントの作成に伴う手作業での作図を自動化するテクノロジー。
せ	生徒の学習到達度調査	OECD（経済協力開発機構）が進めているPIISA（Programme for International Student Assessment）と呼ばれる国際的な学習到達度に関する調査。15歳児を対象に、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの三分野について、3年ごとに実施。
そ	Society5.0 (ソサイエティ5.0)	サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもの。
は	場面緘黙（ばめんかんもく）	家庭ではごく普通に話すことができるが、幼稚園や保育園、学校のような「特定の状況」では、1か月以上声を出して話すことができないことが続く状態。家族とのコミュニケーションは全く問題ないが、家族以外や学校で全く話せない。近年、「不安症や恐怖症の一種」と捉えられるようになった。
ふ	フェイクニュース	嘘やデマ、陰謀論やプロパガンダ、誤情報や偽情報、扇情的なゴシップやディープフェイク（人工知能の技術で合成した偽動画）、これらの情報がインターネット上を拡散して現実世界に負の影響をもたらす現象を指す用語。
	42Tokyo (フォーティーツウキョウ)	フランス発のコンピュータプログラミングエンジニア養成機関。学生同士で教え合いながら課題に取り組む学習スタイルのため、講師がおらず、授業や教科書がない。
	VUCA (ブーカ)	不安定（Volatility）、不確実（Uncertainty）、複雑（Complexity）、曖昧（Ambiguity）の頭文字を並べたもの。将来の予測が困難な状況を示す造語。